

人間としての在り方生き方に関する教育 学習指導案

埼玉県立栗橋北彩高等学校

1 日時 平成 28 年 11 月 24 日（木） 6 校時

2 場所 1 年次各 HR 教室 （HR 棟 3 階）

3 対象 1 年次全クラス

4 研究主題

「人間としての弱さや克服する強さを自覚し自立の精神を養うとともに、
他者への思いやりをもって行動しようとする心を育成する。」

5 研究主題の設定理由

本校は、栗橋高等学校と北川辺高等学校が統合し、平成 22 年 4 月に開校した男女共学の全日制単位制高校である。活動的でよく挨拶ができる生徒が多く純朴である。近年は入学生の通学範囲は広がり、生徒の生活環境や学力に関して多様化している。生徒は、生活体験の具体的場面において善悪の判断を身につける。すなわち、様々な場面での試行錯誤を踏まえて、道徳的行動規範が確立されると考える。

（略）

これまで実施してきた道徳教育活動の一層の組織化を図り、生徒に自立心と豊かな心を育成することを目指すこととした。

6 本時のねらい

思いやりのある行動をしようとする態度を育成する。

7 使用資料

- ・「19 心温まるラブレター」（出典：埼玉県教育委員会 「明日をめざして」）
- ・「23 お礼というボランティア」（同上）

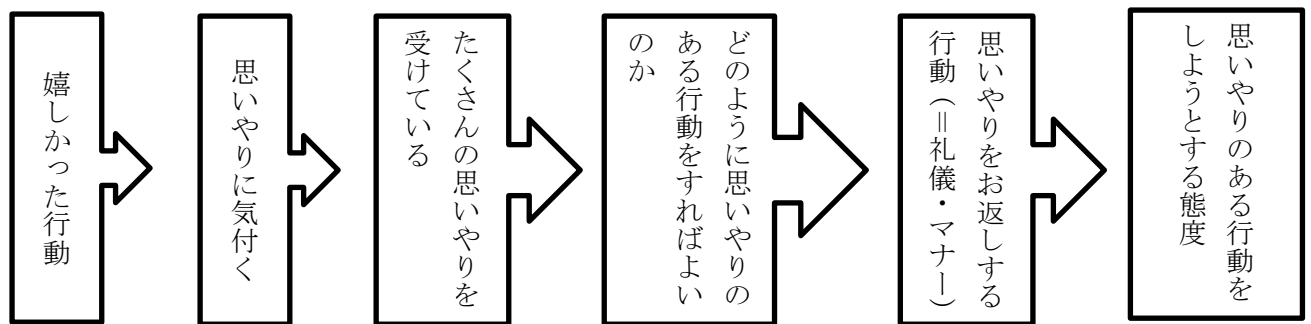
8 本時のねらいと研究主題との関連

○生徒観

（略）

○指導観

研究授業発表では、各授業者がクラスの実態に応じて 2 種類ある資料から 1 つ選び実施している。思いやりのある行動はどのようにして行動として現れるのかを考え、以下の視点をもとに授業作成を行っている。



「心温まるラブレター」では、登場人物の相手に対して思いやりのある発言から、普段の生活の中で感じている感謝を言葉として相手に伝えている。この資料を用いて、意図的に思いやりのある発言を削除し生徒に考えさせ表現することで実生活と似たような状況を作りだし、状況を踏まえた行動を考えさせることを反復して行う。その中で生徒自身の考えた思いやりに気付かせていく。また、友人と話し合わせることで、考えが受け入れられることによる肯定感や普段の生活での実践する意欲につなげていきたい。

「お礼というボランティア」では、主人公である“私”の状況や視野、考えの変化を用いて生徒自身の行動や生活を振り返らせていく。主人公は輸血治療で回復への兆しが出始め視野が広がり多くの支えによって生活が成り立っていることに気付く。生徒の生活を振り返らせ、多くの支えに気付くよう物語を通して働きかけていく。そして、主人公が回復のきっかけとなった献血をしたいができないという状況で姉が「あなたが献血でお世話になったお礼に、献血してきたよ！」という報告から、姉の妹を思う思いやりと、思いやりを返す行動として礼儀やマナーがあることに気付かせる。

2種類の教材を用いて、それぞれの働きかけによってねらいに近づけていく。

9 本時について（心温まるラブレター）

（１）本時のめあて

- ・ 具体的場面を通して、思いやりのある行動を具体的に考える。
- ・ 実生活において思いやりのある行動をしようとする態度を育成する。

（２）本時の展開

	学習内容	指導上の留意点
導入 (8)	・ 生徒自身の生活から、思いやりのある行動をされたときの気持ちはどのようなものであったか想起させる。 ◎「どんな時に思いやりを感じることができたか。」 ・ 様々な生活場面においてどのような行動をとるべきかと困った経験について想起させる。（話す・話をさせる・発表させる） ◎「逆に、行動できなかったもしくは行動してもらえなかったことはありますか。」	・ 思いやりのある行動は、とったほうも取られたほうも気持ちがよいことに気付かせる。 ・ 思いやりのある行動を積極的に考えようとする興味付けを行う。
展開 (35)	具体的な生活場面から、思いやりのある行動を考える。 グループ活動の場面 1 心温まるラブレター「第 8 回手紙文化振興賞受賞ラブレター」のお父さんの状況から、お母さんへの声掛けを考えさせる。 （資料を分割しておき、それぞれの情報量において考えさせる） ・ 実際の対応を伝える。 グループ活動の場面 2 心温まるラブレター「第 9 回大賞受賞ラブレター」の、お母さんの状況から、お父さんへの声掛けを考えさせる。 ・ 例として、教員によるふさわしくない対応から感じ方を考える ・ お母さんの対応を発表させる ・ 「ありがとう」を埋める	・ 3～4 人の班をつくり、主体的に活動させるようにする。 ・ お父さんの言動を削除し、生徒に考えさせる。 ・ 発表者の行動から、良い点を考えさせて共有していきたい。 ・ お母さんの言動を削除し、生徒に考えさせる。 ・ 発表者の行動から、良い点を考えさせて共有していきたい。
終末 (7)	・ 思いやりのある行動をするよう、話をする。 例) 状況をくみ取り周りが思いやり、余裕が持てるようになったら、思いやりのある行動のお返しをしていけるとよいですね。	

10 本時について（お礼というボランティア）

（1）本時のめあて

- ・自身の生活が多くの人の支えによって成り立っていることに気づくことができる。
- ・感謝の気持ちを思いやりとして行動に表そうとする態度を育成する。

（2）本時の展開

	学習内容	指導上の留意点
導入 (8)	・生徒自身の生活を振り返らせ、自身の生活を支える人を想起させる。 ㊦「自身の生活を支える人には、どのような人がいますか。」 ・それらの支えに、どのようにしてお返しをすることができるのか考えさせる。 ㊧「あなたは、その人たちにどういうことができますか。」	・支えあって生活していることに気付くよう促す。 ・物語への興味付けをするため、導入では問いかけのみを行い、考えさせる。
展開 (32)	物語を通して、多くの人の支えに気づき思いやりへとつなげる。 活動1 別紙①までを読ませ、“私”の気持ちを想像させる。 ㊦「私はどのような気持ちでしょうか。」 別紙②までを読ませ、私が支えに気付くことのできたきっかけについて考えさせる。 ㊦「私の体調がよくなり始め、気持ちはどのように変化しましたか。」 別紙③までを読ませ、姉からのメールを受け取った時の“私の気持ち”と“姉の気持ち”について考えさせる。 ㊦「お礼の気持ちからでる行動は、何だと思いますか。」 グループ活動 別紙④までを読み、思いやりのある行動は周囲への感謝を表す行動であることに気付かせる。 ㊧「ボランティアの行動は、私にとってどのような気持ちの表れですか。」	・“私”の立場に立ち、気持ちを生徒の言葉で表現させる。 ・私の立場の変化から、気持ちの変化へとつなげていきたい。（回復への兆しが出る→今までの支えに感謝を伝えたい） ・姉の行動から、私はボランティア＝お礼と考える。このことからボランティアを思いやりのある行動と置き換え、お礼の現れであることにつなげたい。
終末 (10)	・生徒の生活を支えている人を想起させる。 ㊦「自身の生活を支える人には、どのような人がいますか。」 ・支えてくれている人に、どのような思いやりのある行動ができるのかを考えさせる。 ㊦「支えてくれる人に、どのような思いやりのある行動ができますか。」	・物語を生徒の実生活へとつなげるよう、導いていく。 ・具体的な行動を取り上げ、実生活で行うよう促していく。